

2017.4.19

サンクゼールの新しい企画オフィスが誕生。

信濃町オフィス棟の1階を全面改装

「久世福商店」、「St. Cousair（サンクゼール）」などの専門店を全国に100店舗以上展開している、食品製造小売企業（SPA）の株式会社サンクゼール（本社・長野県飯綱町/代表取締役社長：久世良三）は、2017年4月15日、サンクゼール信濃町オフィス（長野県信濃町平岡）1階部分を全面改装しました。全国から信濃町オフィスを訪ねてこられるお客様との商談スペースとしてだけでなく、100名以上の社員が企画を練り上げたり、リラックスして憩う場所として、森に囲まれたクリエイティビティー溢れる素敵なオフィスが誕生しました。

サンクゼールの森（長野県上水内郡信濃町）

2013年、サンクゼールは新業態「久世福商店」の戦略拠点として、信濃町平岡に黒姫山を望む森林を有する約3万坪の敷地と倉庫、工場、事務所棟を取得しました。飯綱町の本社施設であるワイン工場・フード工場・本店ショップ・レストランの総称として「サンクゼールの丘」、信濃町の敷地・倉庫・工場設備等を「サンクゼールの森」と称して運用してきました。2014年3月からは企画及び事務機能のすべてを飯綱町から信濃町へ移転し、その後ジェラート工房、ドーナツ工房も信濃町で稼働させてきました。以来3年が経過して「サンクゼールの森」は、日々全国からお越しいただくお取引様との商談を行う活気に溢れる場所として、100名以上の社員が新しい企画や課題を議論する場所として、年々その存在感が益々高まっていたところです。これまで温めていた改装プランを、この度ようやく実行に移すことができ、約1か月の工期を経て改装が完了しました。



改装後に期待する役割

1. お客様を「おもてなし」する森のフロントのような存在
2. 商品を「提供」するキュレーターのような存在
3. 生産者や産地、地場を「支援」するサポーターのような存在
4. 最高のコミュニケーションの場 人が集まる＝情報が集まる

さまざまなストーリーが展開され、全ての人に「フェア」であること、そんな空間を提案します。



今まで無機質だった1階の商談スペースにはアンティーク調の家具やカフェカウンターが配置され、北欧のホテルのロビーのように居心地の良い空間に生まれ変わりました。工場の跡地を再利用しているため高い天井高を活かした明るく開放感のある空間です。森の自然光もふんだんに取り入れており、個室商談ブースは壁に囲まれた閉塞的な部屋ではなく、ガラス張りにして開放的な空間を作りました。個室ブースを仕切るレンガの壁は可動式で、用途に応じて部屋の広さを調整可能です。

ご多用中とは存じますが、ご取材賜りますように宜しくお願い申し上げます。